

【今日の説教から】

あの幸いなヨセフ物語の結末を私たちは見届けました。しかしヤコブに神様から次のような言葉がありました。

「わたしはあなたと一緒にエジプトに下り、また必ずあなたを導き上るであろう」(創世記 46:4)

こうしてエジプトに移住して約350年が経ち、ヨセフを知らない新しい王が即位しました。これはエジプトの体制が変化したことを指すのかもしれませんが。

ここからイスラエル人への敵視政策が始まりました。

「イスラエルの子孫は多くの子を生み、ますますふえ、はなはだ強くなって、国に満ちるようになった」この繰り返して描かれるイスラエルの繁栄は、神様が天の星のように、地のちりのように子孫を多くするとの約束の通りでした。

これを見てエジプト人はイスラエル人の上に重い労役を課しましたが、イスラエル人たちは苦しめられれば苦しめられるほどにいよいよ増え広がり、エジプト人たちはイスラエル人のゆえに恐れました。

そしてついにエジプトの王は助産師に命じて生まれてきたのが男の子ならば殺すように命じましたが、助産師たちは神を恐れるがゆえに命に従わず、彼女らは神様の恵みを受け、民は増え、非常に強くなりました。

後にモーセと名付けられる男の子も、愛と祈りの中、良きアイディアが生まれ、神様はそのすべてを守られ、いのちの道が開かれます。パロの娘の手を通して導かれたのは他ならぬ神様ご自身でした。

皆様おはようございます。いよいよあさってからは4月です。暖かくなったり、寒くなったり
の三寒四温の日々、花粉に黄砂にはやり病に。色々な年度替わりのせわしなさもあると思いますが、どうぞ体調にはお気を付け下さい。

今年のイースターは4月20日です。その1週前の受難週は再来週です。主のお苦しみを覚えつつ、今日の御言葉に聞きましょう。

あの幸いなヨセフと家族との再会から約350年の年月が経ちました。

1:1 さて、ヤコブと共に、おのおのその家族を伴って、エジプトへ行ったイスラエルの子らの名は次のとおりである。

1:2 すなわちルベン、シメオン、レビ、ユダ、

1:3 イッサカル、ゼブルン、ベニヤミン、

1:4 ダン、ナフタリ、ガド、アセルであった。

1:5 ヤコブの腰から出たものは、合わせて七十人。ヨセフはすでにエジプトにいた。

1:6 そして、ヨセフは死に、兄弟たちも、その時代の人々もみな死んだ。

1:7 けれどもイスラエルの子孫は多くの子を生み、ますますふえ、はなはだ強くなって、国に満ちるようになった。

「イスラエルの子孫は多くの子を生み、ますますふえ、はなはだ強くなって、国に満ちるようになった」この繰り返して描かれるイスラエルの繁栄は、神様が天の星のように、地のちりのように子孫を多くするとの約束の通りでした。

1:8 ここに、ヨセフのことを知らない新しい王が、エジプトに起った。

1:9 彼はその民に言った、「見よ、イスラエルびとなるこの民は、われわれにとって、あまりにも多く、また強すぎる。

1:10 さあ、われわれは、抜かりなく彼らを取り扱おう。彼らが多くなり、戦いの起るとき、敵に味方して、われわれと戦い、ついにこの国から逃げ去ることのないようにしよう」。

引用 「ヨセフのことを知らない新しい王(ファラオ)」(1章8節)とは？

① エジプト人は非常に早くから自国の歴史を書き残しており、第一王朝から第三十王朝に至る各王朝の歴史の王の名前を一人も抜かさずにたどっていくことができます。しかもその間の様々な出来事を記されています。ところが、紀元前 1770 年頃から 1580 年頃の期間については、記録の面から言えば、まことに空白の時代なのです。この期間は北方から「ヒクソス」(外国の支配者)が侵入し、エジプト北部を占領し、南部はエジプトが支配する時代が第十四王朝まで続きました。その後、15、16 王朝になるとヒクソスの統一支配によってエジプトは王座を奪われてしまいます。17 王朝で再び南がエジプト人の王の手に戻され、18 王朝に至ってようやくエジプト全土を奪い返して、ヒクソスを追い出すことに成功したのです。

②「ヒクソス」はセム系の民族で、イスラエルとはいわば同系統の混成集団であったようです。創世記のヨセフ物語に登場するパロはこのヒクソスの王であったと考えられます。親戚関係の民族であったゆえに、ヤコブ一族のエジプト移住も優遇されたと言えます。ところが「ヨセフの知らない新しい王」がヒクソスを追放して国を奪回したエジプト人の王朝であるとすれば、イスラエル民族に対する酷使、虐待政策はよく理解できます。

「牧師の書斎」ホームページより

これは、どうしてある時からエジプトが急にヨセフのことを忘れてしまうのか、国を救った英雄の子孫が急に敵視されるのかという疑問に良く答える考え方だと思います。

まさに敵視政策です。国の中の敵対勢力が国の外の敵対勢力と合致したら一大事だという

事で辛く当たるようになりました。さあ、イスラエルの人たちはどうになってしまうのでしょうか。

1:10 さあ、われわれは、拔かりなく彼らを取り扱おう。彼らが多くなり、戦いの起るとき、敵に味方して、われわれと戦い、ついにこの国から逃げ去ることのないようにしよう」。

敵に味方して、我々の国を敵と共に征服して、私たちは追い出されてしまうかもしれないと危惧するのならわかる気がするのですが、「敵に味方して、われわれと戦い、ついにこの国から逃げ去ることのないようにしよう」とエジプト人たちが言っているのは興味深いですね。こんなにも嫌われていたイスラエル人たちですが、エジプト人たちが恐れるのはイスラエル人自身がこの国から逃げ去ることであったという事が興味深いのです。そんなにも嫌い、その繁栄を妬ましく思いながら、国にとって彼らの存在と力と繁栄が力の支えであったということが分かります。アブラハムしかり、ヤコブしかり、イサクしかり、ヨセフしかり、皆行くところで神様の祝福が現わされ、周囲の人たちに神様の栄光と力が現わされてきたという事を思い起こします。

1:11 そこでエジプトびとは彼らの上に監督をおき、重い労役をもって彼らを苦しめた。彼らはパロのために倉庫の町ピトムとラメセスを建てた。

1:12 しかしイスラエルの人々が苦しめられるにしたがって、いよいよふえひろがるので、彼らはイスラエルの人々のゆえに恐れをなした。

憎しみと共に、彼らを奴隷のように働かせ、エジプト対イスラエルの戦いに、エジプト勝利という終止符を打とうとするのですが、「しかしイスラエルの人々が苦しめられるにしたがって、いよいよふえひろがるので、彼らはイスラエルの人々のゆえに恐れをなした」と聖書にはあります。ここにも神様の民の力強さが示されています。

ラメセスの町は、一説によれば彼らが定住していたゴセンの地に建てられたとか。彼らに対する嫌がらせは大変なものであったに違いありません。

困難や迫害にさらされ、にっちもさっちもいかない時。しかし神の民には神様ご自身がついておられ、苦しめば苦しむほど、いよいよ祝福と繁栄のうちに増え広がる。何という頼もしい神様のお働きなのでしょう。今日の日本の教会にもこのお言葉のおこぼれにも預かりたい気持ちがいたしますが、神様は昨日も、今日も、とこしえに変わらないお方です。

「彼らはイスラエルの人々のゆえに恐れをなした。」

これが彼ら自身の力によるものではないことは明白です。

2 コリント 6:2 神はこう言われる、／「わたしは、恵みの時にあなたの願いを聞きいれ、／

救の日にあなたを助けた」。見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である。

6:3 この務がそしりを招かないために、わたしたちはどんな事にも、人につまづきを与えないようにし、

6:4 かえって、あらゆる場合に、神の僕として、自分を人々にあらわしている。すなわち、極度の忍苦にも、患難にも、危機にも、行き詰まりにも、

6:5 むち打たれることにも、入獄にも、騒乱にも、労苦にも、徹夜にも、飢餓にも、

6:6 真実と知識と寛容と、慈愛と聖霊と偽りのない愛と、

6:7 真理の言葉と神の力とにより、左右に持っている義の武器により、

6:8 ほめられても、そしられても、悪評を受けても、好評を博しても、神の僕として自分をあらわしている。わたしたちは、人を惑わしているようであるが、しかも真実であり、

6:9 人に知られていないようであるが、認められ、死にかかっているようであるが、見よ、生きており、懲らしめられているようであるが、殺されず、

6:10 悲しんでいるようであるが、常に喜んでおり、貧しいようであるが、多くの人を富ませ、何も持たないようであるが、すべての物を持っている。

ローマ 5:1 このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている。

5:2 わたしたちは、さらに彼により、いま立っているこの恵みに信仰によって導き入れられ、そして、神の栄光にあずかる希望をもって喜んでいる。

5:3 それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、

5:4 忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである。

5:5 そして、希望は失望に終ることはない。なぜなら、わたしたちに賜わっている聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからである。

パウロもこう語りました。神様の御名は讃えられるべきかなです。

1:13 エジプトびとはイスラエルの人々をきびしく使い、

1:14 つらい務をもってその生活を苦しめた。すなわち、しっくいこね、れんが作り、および田畑のあらゆる務に当らせたが、そのすべての労役はきびしかった。

1:15 またエジプトの王は、ヘブルの女のために取上げをする助産婦でひとりは名をシフラといい、他のひとりは名をプアという者にさとして、

1:16 言った、「ヘブルの女のために助産をするとき、産み台の上を見て、もし男の子ならばそれを殺し、女の子ならば生かしておきなさい」。

1:17 しかし助産婦たちは神をおそれ、エジプトの王が彼らに命じたようにはせず、男の子を生かしておいた。

1:18 エジプトの王は助産婦たちを召して言った、「あなたがたはなぜこのようなことをして、男の子を生かしておいたのか」。

1:19 助産婦たちはパロに言った、「ヘブルの女はエジプトの女とは違い、彼女たちは健やかで助産婦が行く前に産んでしまいます」。

1:20 それで神は助産婦たちに恵みをほどこされた。そして民はふえ、非常に強くなった。

1:21 助産婦たちは神をおそれたので、神は彼女たちの家を栄えさせられた。

そして次にエジプトの王は残虐にもイスラエル人の男の子供を出産のときに見たら殺してしまえと命じました。しかしヘブル人の助産婦たちは王を恐れるのではなく神様を畏れたので、王の命令には従いませんでした。

ここに私たちに生きるスタンスが描かれているように思います。

神を信ぜよ、そして神を恐れるのなら、目に見えるところの恐れは消え去り、そして脅威からも救われ、そして覆すことも害することも出来ない神様からの祝福に満ち足りることが出来ます。

1:22 そこでパロはそのすべての民に命じて言った、「ヘブルびとに男の子が生れたならば、みなナイル川に投げこめ。しかし女の子はみな生かしておけ」。

2:1 さて、レビの家のひとりの人が行ってレビの娘をめとった。

2:2 女はみごもって、男の子を産んだが、その美しいのを見て、三月のあいだ隠していた。

2:3 しかし、もう隠しきれなくなったので、パピルスで編んだかごを取り、それにアスファルトと樹脂とを塗って、子をその中に入れ、これをナイル川の岸の葦の中においた。

2:4 その姉は、彼がどうされるかを知らうと、遠く離れて立っていた。

今度はエジプトの王は助産婦頼りをやめて、民に直接命じて男の子を生んだのならば川に投げ捨てよと言いました。

ここに一人の子が登場します。「女はみごもって、男の子を産んだが、その美しいのを見て、三月のあいだ隠していた。しかし、もう隠しきれなくなったので、パピルスで編んだかごを取り、それにアスファルトと樹脂とを塗って、子をその中に入れ、これをナイル川の岸の葦の中においた。」

有名な話です。そしてその子のお姉さんはその赤ちゃんがこれからどうなるのかを見守るためにそのかごを見つめていました。かごに防水処理をして、涼しいところに置いたからと言って、お乳も与えずに長くそこに生きながらえるわけにはいきません。いったいこの子はどうなるのかという祈るような気持ち。「どのように、彼のために事は施されるのだろうか」。そこに神様のお働きがありました。

2:5 ときにパロの娘が身を洗おうと、川に降りてきた。侍女たちは川べを歩いていたが、彼女は、葦の中にかごのあるのを見て、つかえめをやり、それを取ってこさせ、

2:6 あけて見ると子供がいた。見よ、幼な子は泣いていた。彼女はかわいそうに思ってた、「これはヘブルびとの子供です」。

2:7 そのとき幼な子の姉はパロの娘に言った、「わたしが行ってヘブルの女のうちから、あなたのために、この子に乳を飲ませるうばを呼んでまいりましょうか」。

2:8 パロの娘が「行ってきてください」と言うと、少女は行ってその子の母を呼んできた。

2:9 パロの娘は彼女に言った、「この子を連れて行って、わたしに代り、乳を飲ませてください。わたしはその報酬をさしあげます」。女はその子を引き取って、これに乳を与えた。

2:10 その子が成長したので、彼女はこれをパロの娘のところに連れて行った。そして彼はその子となった。彼女はその名をモーセと名づけて言った、「水の中からわたしが引き出したからです」。

神様はご自身の業をなさいます。お母さんはお給金すら頂いて、自分の子の命が救われ、自分の子を命へと導き出され、わが子を養育することが出来ました。

神様のお導きはなんと素晴らしいことなのでしょう。

2:10 その子が成長したので、彼女はこれをパロの娘のところに連れて行った。そして彼はその子となった。彼女はその名をモーセと名づけて言った、「水の中からわたしが引き出したからです」。

パロの娘は自分が自分の意思で、力で、憐れみを懸けた引き出したと語りますが、すべては神様のお導きの中にありました。

私たちもまた神様の御力によって罪から、嘆きから、悲惨から引き出され、救われています。この神様の尊いお働きのゆえに、私たちもまた神様のお言葉に聞き従い、御救いを証ししていきたいと願います。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。

神様はご自分の民を祝して強め、増し加えてくださいましたが、それに

つれてエジプトの地で風当たりが強くなり、矢面に立たされ、苦しめら

れることになりました。しかし苦しめられれば苦しめられるほど彼らの数は増えました。王の命令よりも神をおそれた助産婦たち。そして一人の男の子を死の危険から救い出して、後に民族を救い出すモーセを備えられる神様。苦しみと絶体絶命の中にある私たちへのあなたのすべての救いに感謝いたします。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。

アーメン